



## もっと想像力を！

病院長 飯沼 利光

新学年がはじまり3か月が過ぎました。学生の皆さんは、勉学にそしてクラブ活動にと、日々頑張っていることと思います。先日、来年夏に東京で開催されるオリンピック観戦の公式チケットの抽選申し込みが終了しました。公式サイトへの累計アクセス数が1千万件を超えたとの報道がなされ、東京大会2020はたいへん大きな盛り上がりを見せています。ただ一方で、大会出場を目指し、過酷な練習や試合の日々を過ごしている選手たちは、国や自分の名誉をかけ、とてつもなく大きなプレッシャーと戦っているものと思います。その選手たちの心の支えはいったい何なのでしょう。それはきっと、晴れの舞台で大きな声援の中、活躍する自分の姿を想像し、その実現への強い思いではないでしょうか。「想像力は知識よりも重要である。」この言葉は、20世紀最大の科学者の一人で、ノーベル物理学賞を受賞したアインシュタインの言葉です。私は、学生の皆さんが医療人としての知識を増やすのはとても重要ですが、それに加え大いに想像力を身に着けて欲しいと思っています。日々の大学での勉学や学生生活は大変かもしれません。しかし、それは必ず将来の自分の糧となります。苦しみが多い程、将来そこから得るものは大きくなる。だから10年後、30年後そして50年後の自分を想像して、今やれることに一生懸命挑戦してください。

(教授 歯科補綴学第I講座)



## 歯学部開講式

平成31年度歯学部開講式は、4月1日(月)本学部本館創設百周年記念講堂において、新入生128名を迎えて挙行されました。

本田和也歯学部長より、「本学部は、平成28年に創設100周年を迎えた歯学の伝統校である。新入生には、日本大学の教育理念『自主創造』と、歯学部創設者の佐藤運雄博士が建学時に唱えられた教育理念『医歯一元論』に基づき、人間性豊かな歯科医師を目指してほしい。また、課外活動にも積極的に参加し、互いに切磋琢磨しあえる多くの友人を作り、有意義な学生生活を送ってほしい。」との式辞がありました。

また、来賓を代表して、横江順後援会会長が祝辞を述べられ、続いて在校生を代表して森山鮎子さん(第6学年)が「歓迎の詞」を、新入生を代表して筒井蒼耶さんが「誓いの詞」を述べました。



森山鮎子さん(第6学年)

筒井蒼耶さん(第1学年)

### 【新入生128名の内訳】

男子57名(44.5%)、女子71名(55.5%)、現役63名(49.2%)、既卒等65名(50.8%)一般入学試験入学者74名(A方式72名、C方式第1期1名、C方式第2期1名、N方式0名)校友子女入学試験入学者19名、一般推薦(公募制)入学試験入学者13名、付属高校からの推薦入学試験入学者22名、外国人留学生入学試験入学者0名

**出身高校数104校:**日本大学第二 4名、青山学院、秀明、日本大学豊山女子、土浦日本大学、佐野日本大学 各3名、清風、淑徳与野、実践女子学園、城北埼玉、獨協埼玉、野田学園、雙葉、日本大学、日本大学習志野、千葉日本大学第一、佐野日本大学中等教育 各2名 ほか87校

**出身地31都道府県等:**東京48名、埼玉13名、神奈川11名、千葉8名、栃木6名、茨城、静岡 各5名、大阪4名、北海道、宮城、山形、長野、鳥取、山口、佐賀 各2名 青森、秋田、福島、群馬、富山、石川、山梨、岐阜、兵庫、奈良、福岡、鹿児島、沖縄 各1名

## 大学院歯学研究科開講式

平成31年度大学院歯学研究科開講式は、新入生29名(うち社会人9名)を迎え、本田和也歯学研究科長をはじめ関係教職員の出席のもと、4月9日(火)本学部本館創設百周年記念講堂において挙行されました。厳粛な雰囲気の中、本田和也歯学研究科長からの式辞、続いて佐藤秀一研究担当からの祝辞がありました。新入生を代表して小助川聖史さんが「誓いの詞」を述べ、式終了後には修学及び研究等についてガイダンスが行われました。



## 既卒生に対する国家試験合格支援活動

国家試験合格支援小委員会

外木 守雄、林 誠、田中 秀樹

歯学部同窓会の活動の一環として発足した国家試験合格支援小委員会は、今年活動3年目を迎えました。

特別講義の実施や質問対応、自習室の提供など学習面における支援だけでなく夏の激励会、春の合格祝賀会などのイベントの開催、マッチング等に必要となる各種申請手続きの手間を軽減するお手伝い等も既卒生からの要望に応じて実施しています。

これからも、既卒生の気持ちに寄り添い第113回歯科医師国家試験合格を目指す全員が合格する日まで全力で応援していく所存です。



## 登院式を終えて

我喜屋 佑

桜の花が満開を迎え、新たな元号「令和」が発表された4月1日、登院式が執り行われました。

真新しい院内服に袖を通し気持ちを新たに、大きな期待と緊張、新たな環境への不安を胸に教室に足を踏み入れました。

気づけば、歯学部に入學し日々勉強と実習を積み重ね丸4年が過ぎました。第4学年の最後に行われたCBTとOSCEを乗り越えて、この4年間で身につけた知識と技術を再確認し自信を持つと同時に、臨床現場への憧れと不安が混じる気持ちでこの日を迎えました。

第5学年で行われる院内実習では、これまで学んできた歯科医学の知識や手技に合わせて、患者さんとのコミュニケーションや臨床現場の実際を学ぶこととなります。

同窓会会長小幡先生が仰られた、患者さんが抱える「不」、即ち不快、不満、不能、不安の「不」を取り除くことが歯科医師の務めである、というお言葉に強く感銘を受けました。私もそのような「不」を取り除ける歯科医師になるために、院内実習で新たな一歩を踏み出していく事を心に誓いました。

4月2日から始まった院内実習では、緊張感のある現場で忙しくも充実した日々を過ごしています。Student Doctorという言葉の重みをしっかりと自覚し、日々自己研鑽を怠らず、充実した1年を送りたいと思います。つきましては、指導医の先生方にはご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

臨床技術並びに臨床知識を大いに吸収し、飛躍の1年となるよう鋭意努力してまいります。

(第5学年)



## 令和元年度 歯学部第1回公開講座

中島 一郎

6月1日(土)に第3講堂において令和元年度歯学部第1回公開講座が開催されました。

日本大学歯学部では、「口腔保健と全身の健康シリーズ」と題して年2回、春季と秋季に本公開講座を開催しています。第1回講演は「オーラルフレイルを知っていますか?~老化は足腰からではなく口から始まる!?!」という演題でした。本学部の摂食機能療法学講座の阿部仁子准教授に講師を担当して戴きました。「オーラルフレイル」は、口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを含み、身体の衰え(フレイル)の一つです。高齢社会における口の健康に対する関心が高まりつつあることを受けて企画されました。



当日は130名を超える参加者で椅子が足りないほどの盛況でした。講演では、口腔機能の仕組みや、乳幼児期からの口腔機能の発達について詳細に解説されました。人が離乳食・幼児食を経て口の動きを学習し獲得していくことや、成人から高齢期に向かって口腔機能を維持することの重要性について参加者にわかりやすくデータを用いて講演されていました。些細な口の変化が老後の生活に大きな影響を与える可能性について、興味深いデータを示され有益な情報でまとめられていました。また、高齢期での口腔機能の低下を予防する工夫についても紹介されました。

このように企画・広報委員会では、これからも社会における保健医療ニーズを反映した公開講座に努めて参ります。関係各位のご協力をお願いいたします。

(教授 医療人間科学分野)

## 歯学部後援会総会

6月8日(土)、父母を会員とする歯学部後援会総会が開催されました。

開催に先立ち、本田学部長、横江後援会会長より挨拶があり、今村学務担当からは令和元年度日本大学歯学部における教学基本方針についての話がありました。

総会の議事である平成30年度決算及び事業報告、令和元年度の予算案および事業計画、役員選出に関する件等すべての案件が承認されました。その後行われた学年別懇談会では学年主任及びびクラス担任より学生生活や今年度の予定等が報告されました。

# 新教授の紹介

## 教授就任あいさつ

新井 嘉則



この度、教授として採用していただきました。100年を超える伝統ある日本大学歯学部教授に就任したことは、誠に光栄なことと存じます。

本学の使命は、優れた歯科医師を育成することと、高度な歯科医療を社会に提供することばかりではなく、基礎研究をベースとした革新的な新技術を開発することによって社会貢献することと考えています。

この中で、私は今日まで基礎研究を主体としてまいりました。1997年に歯科用コーンビームCTを開発し本学歯科病院で臨床研究を開始しました。これらの技術は日本大学よりモリタ製作所に技術移転され、その顕著な功績から文部科学大臣賞と科学技術政策担当大臣賞をいただくことができました。特許は海外にもライセンスされ、その収益は学部運営にも寄与することができました。

その後、実験動物用マイクロCTの開発、分析用ソフトの開発を行ってまいりました。2008年からは特任教授として、主に大学院生の研究支援をさせていただきました。この間に、様々な方からご支援や機会を与えていただきました。それらに心から感謝しております。

しかしながら、優れた歯科医師を育成することと、高度な歯科医療を社会に提供することに関しては十分に取り組んではまいりませんでした。そこで、2017年に非常勤から常勤の特任教授に就任したことを契機に、これらにも進んで取り組むようにいたしました。教育のインフラとして、独自のe-learningシステムの開発を行い、学生に使用していただいております。

今後は、基礎研究の経験を活かしつつ、自主創造の本学の精神に則り、新しい教育用のコンテンツを開発していきたいと考えています。そのためには、講座や事務組織を超えた連携が重要と考えています。学生に寄り添って、優れた歯科医師を育成することで、国民に奉仕していきたい所存であります。どうか皆様の温かいご支援をいただければと存じます。

(歯科放射線学講座)

### 【略 歴】

昭和59年日本大学歯学部卒業。昭和63年日本大学大学院歯学研究科修了。日本大学助手、特任教授を経て、平成31年4月本学教授。歯学博士。59歳。

## 移行期の教育活動に 新たな展開を！

山岡 大



日本大学理工学部4年生の6月、日本歯科保存学会において、本学部歯内療法学講座と理工学部との共同研究として学会発表を行ったのが、私の電氣的根管長測定器 (EMR) の研究の始まりでした。その後、1984年の同学会

で「相対値法を用いた根管長測定器の試作」の演題で、相対値法という本邦では初となる計測法を発表しました。そして、1985年に日本大学助手として歯学部勤務となってからは、相対値法によるEMRを世に出すため、生体の電気特性の解明とEMRの試作に明け暮れた日々を過ごし、1988年に歯科医療機器のAPITI型を臨床現場に導入することができました。この貴重な研究生活を契機に、私が専攻した医用電子工学の視点から臨床で必要とされる医用機器の開発を共同研究の形態で進めてきました。

一方、教育では専門課程の準備教育を担う一般教育の教員として、これまでの古典物理学を主とした知識伝授型の教育法を改め、物理の基礎知識が「人体」や「医療機器」にどのように関わっているかの視点に立った授業を実施してきました。具体的には、歯学教育モデル・コア・カリキュラムに記載されている電氣的根管長測定器、放射線、レーザー等の歯科医学教育で教授する物理学関連のキーワードを抽出し、初学の学生でも物理の基礎知識を修得できる教授法の立案に力を注いできました。また、昨今の学生の著しい資質の変化に対応するために、大学が提供する入学前教育、リメディアル教育、初年次教育の移行期の教育活動に対しての分析を進めてきました。特に大学教育を受けるために必要な基礎学力を補う入学前教育およびリメディアル教育については、再考すべき時期に来ていると考えており、その両者の接続がとれた移行期の教育活動の改革が急務であると思っております。

今後は、この移行期の教育活動に新たなアイデアを導入することで、学生自らが勉学に取り組む姿勢と基礎学力が身につくような教育法の実践に尽力して参りたいと思います。

(基礎自然科学分野)

### 【略 歴】

昭和58年日本大学理工学部卒業。昭和60年日本大学大学院理工学研究科前期課程修了。日本大学助手、専任講師、准教授を経て、平成31年4月本学教授。工学修士、博士(歯学)。59歳。

# 随 想

## これは趣味か？ 酒場散歩

今 祐造



小生は、大の酒好きだと自負している。自慢じゃないけど一年365日欠かすことはない。かたくるしく飲む酒は、あまり好きではない。そんなこんなで、大衆酒場が好きだ。平均して月に2回は、妻と二人で浅草界隈

での、はしご酒を楽しむ。特に、ホッピー通りは酒戦場である。20軒ほどの屋台風大衆酒場が軒を連ね、昼から酒を楽しむことができる。その昔は「煮込み通り」と呼ばれていたが、ビールよりも安いホッピーに焼酎を入れて飲むホッピーが良く飲まれたことからその名のとおりホッピー通りになったとか。店にはそれぞれの味があり、まことに美味である。以前から近くにJRA(中央競馬会)の場外馬券場(小生も少々好む)があることから、それを目的とした勝負師達の酒場であった。しかし、近年は観光化し全国津々浦々から老若男女が集う社交場となっている。たいてい相席となる。たわいのない話でも、つつい会話とお酒がすすむ。その日の仕上げは決まって「神谷バー」である。明治13年創業の日本初のバーである。本館は、登録有形文化財産指定になっている。神谷バーといえば絶対と言っていい「電気ブラン」。呑み方は色々。そのままストレート、氷を入れてロック、ソーダで割ってハイボール、ジンジャーエールで割ってジンジャーエールハイボール等々。神谷バーはキャッシュオンで頼むのがルール。入店したらレジに並びお酒と料理を注文して渡された食券をもって席に着く。席はたいてい混んでいるので相席はあたりまえ。先客に「こちらよろしいですか？」と一声かけてから席に着く。ここでも、相席した方とのたわいもない会話がスタートする。夜は長い。

お酒を嗜む方は、是非一度足を運んでみてください。そこには至福の時が待っています。

小生の肝臓(小生、祐造)に感謝合掌。

(参事 管財課)



## 「奇跡の脳 脳科学者の脳が 壊れたとき」

ジル・ボルト・テイラー著

田中 一

「マインドフルネス」というエクササイズが、近年もて囃されている。仕事の手を留め、その場で瞑想(メディテーション)をするのが、その方法だ。座った姿勢で背筋を伸ばし、目を閉じ、自らの呼吸に意識を集中させる。この集中が上手く行くと、心身共に爽快となり、仕事の能率が格段にアップする。

ヨーガの師によれば、このメディテーションの中で「人間のエゴが大宇宙の精神ブラフマンと一体化する」結果、大きな解放感を味わうこととなる。但し、脳の機能をコントロールできるか否か、が事の成否を左右する…らしい。

脳の機能をコントロール？

どのように？

疑問をぶついたら、この本を手渡された。

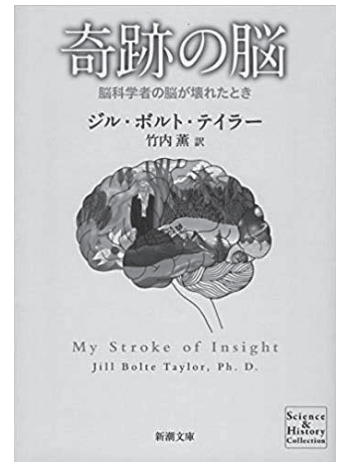
脳は左右の半球から成り、機能も異なる。左脳は批判的、右脳は包容的。

著者ジル B. テイラーは、ハーバード大学の脳科学者。タイム誌の選ぶ「世界で最も影響力ある100人」に、2008年選ばれている。しかしその8年前、37歳の或る朝、彼女は脳卒中で倒れた。

刻々と拡大する血腫。脳の機能が次々と失われて行く中、卒中の発生を先ず認識。残る脳の機能を駆使して救急車を手配、一命を取り留めた。8年間の壮絶なりハビリの後、再び脳科学者として社会への復帰を果たす。ジルはこの本の中で「自と他との間に線を引き、他者を批判したがる」左脳の活動を抑え、「他者を認め、大宇宙の精神と一体化したがる」右脳の活動を優位に導くことは、卒中からの回復に最も重要なスキルであった、と幾度も回想している。

日常的なメディテーションは、心を癒し、肉体もリセットする。師が伝えたかったのは、このことだったのか！共感の波が、頭頂の一点から身体の隅へ、同心円を描きながら緩やかに広がって行った。

(専任講師 細菌学講座)



## 第112回歯科医師国家試験の結果について

### はじめに

第112回歯科医師国家試験の結果は、日本大学歯学部にとっては、大変厳しいものでした。新卒業生の合格率は61.5%で、109名が受験し、67名が合格と、初めて70名を下回りました。新卒の合格者数、合格率のいずれをとっても過去に経験したことのない値でした。例年、多くの卒業生に歯科医師国家試験を受験させて合格させてきましたが、今年の結果に関しましては、卒業生の皆様、ご父兄の皆様、在校生の皆様に対し、大変に申し訳なく、学務担当としてお詫び申し上げます。日本大学歯学部といたしましては、本年度の歯科医師国家試験の結果をもとに現在の教育内容についての振り返りを行い、早急な問題点の改善を図ります。

### 1. 本学の歯科医師国家試験受験生の成績の分析から

本学の受験生の解答をもとに解析を行いますと、必修問題において失敗した人が多かったことが浮かび上がってきます。必修問題は、過去には禁忌問題と呼ばれていた問題の流れを汲むもので、一定の割合で正解しないと不合格となる、絶対評価がなされる問題群です。必修問題は択一の問題ですので、正答の選択肢を一つ明らかにすることができればよいのですが、巧妙に正答と間違える誤答の選択肢が配置されています。この必修問題で多くの不正解を出したということは、問題の本質を正しく理解していなかった人が多かったことを示しています。しかしながら、この必修問題で失敗した人の多くが、総得点では合格した人と遜色なく得点していたことを考えれば、問題の本質を見抜く力が未熟であったことに起因すると考えられます。昨今の国家試験では、このような基本的な事項の応用力を問う問題が増加しています。学生の皆さんは、過去の問題を解く際には、そのまま答えを覚えるのではなく、自分で問題をどのように作り変えることができるかを考えながら解くとよいと思います。学習指導委員会としましては、基本的な問題の本質を問う応用問題の作

学務担当・学習指導委員会委員長 今村 佳樹

成を心がけてゆきます。また、低学年の学生さんは、早くから歯科医師国家試験をイメージして授業に臨むことをお勧めします。大学としましては、低学年から歯科医師国家試験を意識した教育システムを導入することを推進していきます。

### 2. 最低修業年限での卒業と歯科医師国家試験受験

日本大学歯学部では、本学部の建学の祖、佐藤運雄先生の教えである「医学的歯学の専門知識を持った人間性豊かな歯科医師の育成」を目指して教育を行ってきました。正規の授業のみならず課外活動の指導にも力を入れ、文武両立で6年間での卒業を目指して指導を行ってきました。過去3年間の統計を見ましても、新卒の国家試験合格者における6年間での最低修業年限での受験者、合格者の割合は全国の私立歯科大学で1位です。すなわち、留年率は極めて低く抑えて、国家試験合格に導くという方針を貫いてきたわけです。日本大学歯学部の卒業生の多くの方が、6年間課外活動に尽力して友と力を合わせて成果を成し遂げてきたこと、コミュニケーション力、協調性を涵養できたことが大きな収穫であったと認識しています。そこには、日本大学教育憲章にある、自主創造の理念があります。クラブ活動を行いながら効率よく学修を行うには、自ら工夫して学ぶ姿勢が必要です。国家試験を意識した時、低学年から、①まず与えられた学習教材、資料を事前に自己学習しておくこと、②授業中には提示された課題に能動的に取り組み、③自宅で授業中の課題の復習を行うことで大きな成果が得られます。3度同じ課題に取り組むことで、問題を応用する力は格段に伸びると思います。

### おわりに

教育の改善改革は、教員と学生の双方が協力しないと遂行することはできません。大学としましては、従前のカリキュラムの見直しとともに、教科間の連携についても強化を図ります。学生さんが受け身で学修するのではなく、積極的に授業に参加できる環境づくりの促進を目指します。 (教授 口腔診断学講座)



## 研修歯科医の採用について



卒後教育担当 外木 守雄  
(教授 口腔外科学講座)

総合診療科長 紙本 篤  
(准教授 総合歯科学分野)

歯科医師臨床研修制度は本年度で13年経過しております。これまでに当病院の研修を修了した研修歯科医は1000名を超え、研修修了後も様々な分野で活躍しており、

伝統のある日本大学歯学部の評価を向上させているものと考えます。

当プログラムでは、平成28年度の厚生労働省省令の一部改正により「到達目標の達成に必要な症例数や研修内容」および「修了判定の評価を行う項目や基準」が追記され、研修内容の標準化が図られました。また、年次報告においては「研修歯科医の指導体制」、「研修歯科医が経験した平均症例数」、「あらかじめ設定した症例数を達成した研修歯科医の割合」などが追加され、より具体的な項目が求められるようになりました。当院での研修体制は、これらの実績が認められ厚生労働省の研修施設評価で最高の「S」評価をいただいております。現在、指導体制は、指導歯科医162名と130カ所の協力型施設を擁しており（平成31年4月現在）、研修歯科医はこの一年間で様々な専門性を身につけることができるほか、生きた地域歯科医療を学ぶことが可能となります。管理型（新病院）での各診療科における専門診療部研修期間は、昨年と同様にプログラム1-Bが4-6月、プログラム2が5-12月、プログラム1-Aが1-3月となっております。研修修了時に必要とされる症例数が年々増加していることから、当プログラムでも研修歯科医を各診療科へ少数配属することにより、積極的に診療に参加できるようにしております。また、新病院への移転を機に、来年度より新プログラムの策定も進めております。

昨今の歯学教育では、臨床経験を重視した診療参加型教育の充実が求められています。我々指導歯科医は、医療人として自覚をもち、質の高い治療を提供できる研修歯科医を育成する必要があります。このため、学生生活態度や実習に対する姿勢を踏まえ、医療人として当院にふさわしい人材を採用していきたいと考えております。



## 歯科医師臨床研修を終えて

嘉悦 峻

一年間の臨床研修を行ったことで歯科医師として一人の人間としても成長することができました。

私は一年間の大学病院研修プログラムを行いました。その中で、病院ならではの専門診療科での研修や私の所属していた総合診療科での研修で様々なことを学び習得することができました。

特に、総合診療科では歯科治療技術はもちろんの事、歯科医師としての態度や姿勢を学びました。研修歯科医師として未熟だった私に熱心にご指導いただいた総合診療科の先生方にはとても感謝しています。

今後の歯科医師人生の中でかけがえのない一年間を過ごす事ができたように思います。

(本学部卒業)



## 研修医を終えて

玉田 健志

研修医を始めたばかりのころは国家試験を合格したばかりで臨床のことはほとんどわからず、私が当たった症例に対しても何をして良いのか、本当にこの処置であっているのかなど悩むことばかりでした。ですが何もわからないからこそ多くのことを吸収できる時期でもありました。私は大学で1年間研修を行いました。数多くの症例を診て、学ぶことができ、今後続いていく歯科医師人生の中でとても有意義な1年間であったと感じました。

(本学部卒業)



## 第71回日本大学 歯学会総会・学術大会

5月19日(日)、歯学部大講堂において、日本大学歯学会総会・学術大会が行われました。学術大会での発表演題数は特別講演1題と一般講演22題でした。特別講演では歯科補綴学第Ⅰ講座飯沼利光教授が「超高齢社会を迎え、いま何が補綴歯科医療に求められているか—超高齢者疫学調査から得られたデータを基に—」を発表されました。また、一般講演ではこれまで研鑽した研究の成果を発表することで、若手研究者にとって有意義な場となりました。

総会では平成30年度決算・令和元年度予算を含む全案件が承認されたほか、奨励賞授与式が挙行され、今井亜理紗(歯科保存学第Ⅰ講座)、守屋雄太(歯科補綴学第Ⅲ講座)、相馬久実(小児歯科学講座)、氷見一馬(歯科保存学第Ⅱ講座)、千喜良緑(歯科麻酔学講座)の大学院生5名が表彰されました。

## 実験動物慰霊祭

4月20日(土)、歯学部実験動物慰霊祭が両国の回向院で執り行われました。春の暖かい気候のなか、教職員、大学院生、学部学生ら百名近くが参加。副住職からの法話の後、心身に染み渡る読経に続き、本田学部長、平野事務局長の指名焼香と参列者の焼香が行われ、本学部の教育や研究のために供された動物の冥福を祈りました。慰霊祭を終えるにあたり本田学部長は、参列への御礼を述べ、「動物実験は医学の研究・教育の発展に必要なものであるが、3Rの原則(代替・削減・改善)を再認識し、実験動物への感謝の気持ちを忘れずに日々の研究・教育に取り組んでほしい」と挨拶されました。



## 第51回 全日本歯科学生 総合体育大会 スキー部門 9連覇達成

平成30年度主将 大成 峻介

スキー部は昨年度の3月にALL DENTAL9連覇を果たしました。前人未到の記録を残せたことを大変嬉しく思っております。プレッシャーはありましたが、あまり重く考えすぎず日々のトレーニングや合宿に取り組めたことが、9連覇の一因だと思っております。大会中、全員が常に最高の滑りをできるわけではありません。時には前を滑る仲間がコースアウト



してしまうこともあります。しかし、それで諦めるのではなく、その分、後続の部員がより良い滑りをしようという気持ちで臨み、お互いカバーやフォローをしようことができました。改めて競技スキーはチームスポーツであると感じております。最後に日々サポートしてくださっている先生方に心から感謝申し上げます。  
(第5学年)

## 関東インカレでの活躍

入江 亮輔

5月23～26日に相模原で開催された「第98回関東学生陸上競技対校選手権大会」800m決勝において1分49秒21の自己新記録で4位に入賞しました。この大会は通称、関東インカレと呼ばれる大会で、各種目の得点を合計した総合得点で競う大学対抗戦になっています。今回で



日本大学は8連覇することができました。微力ではありますが連覇に貢献することができて嬉しかったです。それに加えて、日本陸上競技選手権大会の参加標準記録を突破したため、6月27～30日に福岡で開催された「第103回日本陸上競技選手権大会」に出場することができました。第2学年では、テストや実習の数も増え大変なことも多いですが、歯学部陸上部の同期などに支えてもらい、1つ1つこなしています。今後も学業を怠ることなく部活動に励み、さらなる飛躍を目指したいと思います。  
(第2学年)



## 新入生オリエンテーション

第1学年担任 渡辺 孝康

平成も残りわずかとなった4月、新入生オリエンテーションが行われました。まず1日に校内オリエンテーションとしてカリキュラムの説明、教員の紹介などがありました。本学部では、附属歯科病院を擁する本館が昨年度より供用開始されましたが、その最上階に位置する歯学部創設百周年記念講堂において、同日に歯学部開講式が開催されました。真剣な面持ちで臨んでいた新入生たちにも、終盤ではさすがに疲れの色もみえましたが、無事に一日を終えることができました。翌日2日からは早速カリキュラムに沿った講義がスタートし、その翌週には日本武道館にて入学式、週末には校外オリエンテーションの説明会やクラブガイダンスに参加、と行事が続きました。序盤から、翌日のスケジュールの確認に追われながら学生生活に慣れることで大変だったと思いますが、日が経つにつれて少しずつ緊張がほぐれてきたようでした。

そんな学生生活が始まって3週間が経とうとした4月19日から20日にかけて、本学の軽井沢研修所において、校外オリエンテーションが行われました。「私の好きなもの」と題した発表を皆の前で行うため、全12班に分かれて、初日の午後に旧軽井沢を散策しながら情報収集をしました。その後、研修所に持ち帰ってスライド資料を作成、翌日に各班5分程度で発表、という形式で企画が進みました。晴天の中の散策や、寝食を共にする集団生活を通じて、学生同士の親睦が深まっただけでなく、大学院生や教職員との交流によって、本学部の学生としての意識が高まった貴重な2日間でした。

最後に、企画・運営して下さった教職員、協力して下さった大学院生にこの場をお借りして感謝申し上げます。  
(助教 基礎自然科学分野)

## オリエンテーション I (校内)

田所 遥菜

希望と不安を胸に抱き、これから6年間一緒に学ぶ新入生128名が初めて顔を合わせた。新しいスタートに胸を躍らせ、真剣に先生方の話を聞いた。初日なので、みんなとても緊張していた。隣の人に勇気を振り絞って、声をかけてみたり、配られた大学生活の書類を眺めたり、それぞれにぎこちなさがあった。なんて話しかけよう、友達できるかな、そんなふうに思いながらいると、オリエンテーションが始まった。開講式では歯学部長をはじめとするたくさんの方々にお祝いの言葉と激励の言葉をいただき、これから始まる大学生活に期

待を膨らませながら、校舎の見学をした。この前まで高校生だった人、長い浪人生活に終止符をうち、前に進み始めた人、すでに別の大学を卒業している人、みんな新しい学生生活に期待と不安でいっぱいだ。様々な人が集まる、それが大学だ。初心忘るべからず。最初のやる気溢れる心を忘れずにみんなで立派な歯科医師になれるように日々精進していきたい。(第1学年)



## オリエンテーション II (校外)

山口 瞭

開講式が終わり3週間が過ぎ、徐々に学生生活にも慣れてきた頃、軽井沢研修所で校外オリエンテーションが行なわれました。普段の御茶ノ水での学生生活では味わえない経験を得る事が出来ました。軽井沢の滞在中、友人と長い時間話す事で、お互いをより知ることができ、さらに、今まで殆ど話した事の無い人とも仲良くなる事が出来ました。私は今までに関東圏の人以外とは話をする機会が殆どありませんでした。しかし、今回のオリエンテーションで、様々な出身地の仲間から話を聞くことが出来ました。福岡から来た学生に、博多ラーメンの麺の茹で加減について尋ねたところ、通常の茹で加減の方が美味しいが、注文すると格好が悪いので、皆少し固めで頼むそうです。北は北海道から南は沖縄まで日本全国から来た学生がおり、その土地土地の地元の話や方言について聞く事が出来ました。これからの学生生活を友人達と共に充実したものにしていきたいと思います。(第1学年)



# オピニオン

○軽井沢で校外オリエンテーションが行われた時、私は花粉症で声帯に炎症があり全く声が出せませんでした。思う存分気持ちを伝えられず悔しい思いをしましたが、そんな私を多くの同級生が助け、協力してくれました。この助け合いは大学に戻っても続いています。私は自然に支え合いができる仲間と出会えて感激しています。

**(1年 大友 侑)**

○日大歯学部に入學して、はやくも前期が終了しようとしています。引き続き勉学も趣味も頑張りたいと思います。趣味といえば、5月に「ドン・カルロ」というオペラを観に行ってきました。作中にでてくる歌が素晴らしいだけでなく、スペインの歴史を考えると非常に興味深い作品でした。一度は鑑賞することを勧めたい作品です。

**(1年 大塚 正志)**

○この大学に入學して1年が経ちました。入學当初は勉強や友人関係など、多くの不安がありました。しかし、入學後部活動にも参加し合宿やイベントを通じ仲間ができました。また、学業の面でも頼りになる多くの仲間ができました。これからの学生生活も仲間と楽しみつつ勉学にも励み日々過ごしていこうと思います。

**(2年 丸山 佳人)**

○欲しいものは何と聞かれた時、今の私なら真っ先に時間が欲しいと言うだろう。新学期に入って数カ月が経過したが、想像以上に多忙な毎日に自然と不安と焦りが生まれていたのが正直なところだ。時間が欲しいと言ったが、1日は24時間だ。24時間を如何に過ごすか、これからの大学生活のカギとなるに違いない。

**(2年 前田 匠)**

○3年になり将来の歯科医師像について考えさせられる機会が増えた。病理学では口腔病変のみならず全身性病変を観察し、口腔領域に留まらない学びの重要性を実感している。又、異常組織観察時には、2年で学んだ正常組織を理解していなければならず、学習の積み重ねの大切さを痛感する日々だ。

**(3年 山口 祐佳)**

○3年になり部活動の半分が終わったことに月日の過ぎる早さを感じる。夏以降には幹部になることを自覚し、その責任を果たしたい。勉強面では臨床科目の内容が多くなっていく。そのため将来自分が歯科医師になることを考え、その場限りの勉強ではなく将来を見据えた勉強をしていきたい。

**(3年 平島 嘉哉)**

○4年生になってから変わったことは、勉強に対しての向き合い方です。来年1月にはCBTがあり、2月にはOSCEがあります。今までは目の前の課題ばかりを見ていましたが、これからは今まで出来なかったところを理解し、努力していこうと思います。

**(4年 柴田 康太)**

○第4学年となり歯学部での学生生活も折り返しの学年となりました。第4学年では引き続き臨床系の講義や実習が幅広く行われています。日々、新しいことを指導して頂く先生方に自発的にアドバイスを受けるよう、心がけて実習に臨んでいます。歯科医師に必要な知識と技術を固める充実した1年にしたいです。

**(4年 神崎 有輝)**

○私は歯科助手などのバイト経験が一切なかったため、事前に先輩方に聞き、院内実習に臨みましたが、いざ現場に出ると右も左も分からない状況でした。しかし、先生方の丁寧なご指導によって充実した日々を過ごしています。少しでも早く立派なStudent Doctorになれるよう、日々これからも努力していきます。

**(5年 西田 有沙)**

○第5学年になっても相変わらず忙しくも充実した生活を送っています。今年は授業の大部分を臨床実習が占め、昨年より早く登校しなければならぬので、正直朝の苦手な自分には厳しい1年になりそうです。しかしそれをプラスに捉えてメリハリのある生活リズムを確立し、学業や部活に精進していきたいです。

**(5年 山田 智也)**



## クラブ協議会から

クラブ協議会会長 稲永 翔伍



今年も各クラブに多くの新入部員が加わり、間近に迫った全日本歯科学生総合体育大会に向けて、より一段と活動に活気が増したように感じられます。日本大学は近年、総合優勝を逃していますが、今年こそは優勝をするべく各クラブの練習成果を

存分に発揮してください。厳しい練習や難しいテストが続く日々に、時には心が折れそうになることもあるかもしれませんが、それを仲間と共に乗り越えることで「平常心と自信」が身につき将来にもきっと役立ちます。なにせよ、優勝というものはした者しか分からない良さがあります。その良さを共有するためにも皆さんのご健闘をお祈りしています。また、クラブ活動を通じて医療人としての資質を磨いて欲しいと思います。(第5学年)

## 第51回

### 全日本歯科学生総合体育大会

歯学体正評議委員 吉田 浩子



昨年度、神奈川歯科大学の主管にて行われた第50回全日本歯科学生総合体育大会は総合5位という結果で、皆さんの頑張りににもかかわらず、残念ながら総合優勝とはなりません。今年こそは総合優勝出来るよう、各部の部員が全員一丸となって練習に励んでいきましょう。新

入生は初めての大きな大会だと思います。大会の雰囲気をしっかり楽しんでください。2、3、4年生は先輩として後輩を引っ張って行ってください。そして、5年生は最後の大会を悔いの残らないように、練習の成果を思う存分に発揮してください。評議委員として、本大会に出場される皆さんを誠心誠意サポートしていけるように努めてまいりますので宜しくお願い致します。(第5学年)

## 球技大会を終えて

球技大会実行委員長 佐藤 壮将

令和初の球技大会が終了しました。今回の球技大会を振り返ってみていかがだったでしょうか？私事ですが、球技大会を終えた後に職員、上級生の方から「ありがとう、楽しかった」と労いの声をかけていただきました。当初の目的だった、球技大会の不参加者の解消に加え自身の中で立てた、球技大会に参加した皆が楽しむという目標が達せて嬉しく思います。来年もそのような「参加して良かった」と言ってもらえる球技大会を、来年の委員長を中心に作りあげてくれればと思います。最後に、開催するにあたり協力していただいた教職員の方々、委員の学生達の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。(第5学年)



## 学生会から

学生会会長 吉田 貴政



本年度学生会会長を務めさせていただく事となり、この場を借りてご挨拶させていただきます。まさか自分が会長を務めることになるとは思っていませんでしたが、先輩方の築いてきた学生会を引き継ぎ誠心誠意努めてまいります。

学生会では教員、職員、学生が三位一体となって話し合う「しゃべり場」、定期的なロッカー掃除、小さな意見にも対応できるよう意見箱の設置、各学年の取り纏めなどを主に行っております。特にしゃべり場は教員、職員の方々と学生が意見を交換できる貴重な機会であり、大学生活をより良いものに出ると信じております。しゃべり場以外にも学生会では学生に勉学、大学に興味関心を持ってもらえるよう活動の幅を広め、精進してゆきたいと思っております。短い間ではありますが、よろしくお祈り致します。(第5学年)

## 桜歯祭に向けて

桜歯祭実行委員長 尾崎 恵悟



今年度の桜歯祭は、10月11日・12日の2日間開催されます。桜歯祭は本学における年に1度の学祭で、各クラブによる出店・展示や多くの学生が参加する「カラオケ大会」など様々な企画があり、多くの方に足を運んでいただいております。同日開催の

NU祭や駿技祭、翔衛祭と合わせて、「日本大学歯学部の良い感じをいただき、ご来場いただいた皆様楽しんでいただける桜歯祭を作りたい」という思いで実行委員一同準備を進めております。今年度もお茶の水アートピクニックとの共同開催を予定しております。伝統ある本学の、令和元年という節目となる桜歯祭へのご来場を心よりお待ちしております。(第4学年)

## NU祭に向けて

NU祭実行委員長 宮下 昂大



今年度も桜歯祭と同時開催でNU祭が開催されます(令和元年10月11、12日)。NU祭とは、各地に分散する日本大学の各専科校が統一のテーマ下に開催される祭典です。歯学部では「いちにち歯医者さん」を開催します。内容は歯を削る模擬体験、歯科

の材料使用したストラップ、歯磨き粉作り、口の中のケアなど歯科により興味を持ってもらえるような企画を用意しております。開催場所は付属歯科病院の地下1階となります。来場された方々全員が楽しんでいただけるように実行委員一同で精進して参ります。歯科に興味がある方、歯科のことを知りたい方、近くを通りかかった方、是非日本大学歯学部のNU祭にお越しください。(第5学年)

※桜歯祭・NU祭の報告は第205号に掲載予定です。

## 歯学部進学相談会

### ●開催日時

第2回	7月25日(木) 10:00~13:00
第3回	8月17日(土) 10:00~13:00
第4回	8月18日(日) 10:00~13:00

※全ての回において、受付開始は9:30を予定しております。

### ●会場

日本大学歯学部4号館 ほか

### ●実施内容

全体説明会(歯学部紹介) 10:00~10:30(予定)  
模擬授業 10:30~11:00(予定)  
資料配布、学部要覧・シラバス等の閲覧、過去問題の閲覧、個別進学相談  
体験実習(第2・4回のみ)

※体験実習は歯学部ホームページより事前予約してください。

校内見学、在校生との対話

※入退場自由です。ご来場をお待ちしております。

### 【問合せ先】

歯学部 教務課  
03-3219-8002 E-mail: de.academic@nihon-u.ac.jp

## 歯学部附属専門学校進学相談会

### ●開催日時

第2回	7月21日(日) 10:00~13:00
第3回	8月17日(土) 10:00~13:00
第4回	9月14日(土) 10:00~13:00
第5回	10月12日(土) 10:00~13:00

※10月12日(土)については、個別相談と学校見学のみ実施  
学部祭(桜歯祭・駿技祭・翔衛祭・NU祭)と同時開催

### ●会場

日本大学歯学部1号館 ほか

### ●実施内容

専門学校専任教員による個別進学相談、学校案内配布、過去入試問題、授業計画などの各種資料の閲覧、講堂や実習室などの校内見学及び、体験実習を実施。

### 《歯科技工専門学校》

(第2~4回) 体験実習…随時  
校内見学…随時

### 《歯科衛生専門学校》

(第2~4回) 在校生に、キャンパスライフについて直接質問が可  
(第2~4回) 体験実習…11:00~(1日1回)  
校内見学…随時

### 【問合せ先】

附属専門学校 専門学校事務室  
03-3219-8007 E-mail: de.ts@nihon-u.ac.jp

■ 附属専門学校から

## 歯科技工専門学校

今春、歯科技工専門学校では、12名の新入生を迎え入れることができました。今までに聞いたことのない専門用語に目を丸くし、また、初めて見たり触れたりする器具や材料の取扱いに四苦八苦しながらも、互いに協力し合っとても充実した学生生活を送っています。第2学年では専門分野の新たな科目に取り組み、また、第3学年は臨床模型実習を行いながら、国家試験や実技評価試験に向けた勉強と実習に励んでいます。学習以外においても、5月に行われた球技大会では、全学年混成チームで3競技に奮闘し、学年を越えて親交を深めることができました。



## 歯科衛生専門学校

令和元年度の在校生は現在、第1学年29名、第2学年35名、第3学年37名の計101名となっています。また、本年度から新に歯科保存学第II講座の准教授清水康平先生が教務主任にご就任されました。第1学年は4月初旬に軽井沢研修所で1泊2日の校外オリエンテーションを行い、学生相互の親睦を深めました。第2学年は登院に向け日々尽力し、第3学年は病院実習にて充実した日々をおくっています。5月22日に行われた第45回日本大学歯学部球技大会では、学年対抗で第2学年が第3位、第3学年が第6位の栄誉に輝き、玉入れ競技では全学年および教員が参加し、学生、教員の粋を超え競技に熱中しました。



## NewsPlus α

☆クラブ顧問会議

第1回会議が6月13日(木)に開催され、クラブ活動等に関する報告や指導伝達事項について説明があった。

☆第51回全日本歯科学生総合体育大会(夏期部門)の結団式

7月11日(木)18時00分から大講堂において開催された。

☆夏期期間中(7/13~9/6)の事務取扱等

学部事務取扱時間	
9:00~17:00 ※土・日・祝休業	
図書館開館時間	
7/16~8/9	9:00~17:00
8/13~8/16・9/4~9/6	9:00~19:00
8/19~9/3	9:00~21:00
※8/1図書館業務研修会のため休館、土・日・祝休館	
附属歯科病院	
9:00~17:00(月~金)	
9:00~13:00(土)	

☆定期健康診断

5月8日(水)・9日(木)、本学部生、大学院生及び専門学校生を対象として、内科健診、胸部X線間接撮影、尿検査、身長・体重測定、また歯科健診は学部1年及び技専1年、衛専1年を対象。なお、学部1年生のみ歯周病検診が実施され、ほぼ100%に近い受診率であった。

## 学 事

### 科学研究費助成事業交付決定者

☆基盤研究(B)

小林 真之

☆基盤研究(C)

岡田 明子	坪井 美行	岩田 幸一	津田 啓方
宮崎 真至	武市 収	林 誠	萩原 芳幸
佐藤 秀一	池田 貴之	生木 俊輔	川戸 貴行
二宮 禎	近藤 真啓	久保亜抄子	田邊奈津子
小柳 裕子	澁田 郁子	今村 佳樹	白川 哲夫
田村 宗明	神尾 宜昌	藤原 恭子	篠田 雅路
藤田 智史	今井 健一	大橋 晶子	Cueno Marni
高山 忠裕	高見澤俊樹	黒川 弘康	清水 康平
小峰 太	飯沼 利光	外木 守雄	大井 良之
篠崎 貴弘	好士 亮介	林 良憲	

☆若手研究(B)

中山 潤利 岩田 潤 高市 祐佳

☆若手研究

大原 絹代	浦田健太郎	秋田 大輔	武井 浩樹
中谷 有香	長嶋 秀和	蓮池 聡	平場 晴斗
西尾 健介	古川 明彦	白土 博司	中井久美子

☆特別研究員奨励費

高市 祐佳

### 平成31年度 大学院歯学研究科入学試験

		1期	2期	計
志願者数	一般	6名	14名	29名
	社会人	1名	8名	
受験者数	一般	6名	14名	29名
	社会人	1名	8名	
合格者数	一般	6名	14名	29名
	社会人	1名	8名	
入学者数	一般	6名	14名	29名
	社会人	1名	8名	

## 学生生活

### 特待生と奨学生

#### = 日本大学特待生 =

第2学年	酒井 皓子 (乙)
第3学年	小見山 奏 (乙)
第4学年	篠原 理恵 (乙) 西村 優香 (乙)
第5学年	青木 良太 (乙)
第6学年	前田 智 (甲)

#### = 佐藤奨学生 =

##### 〈第1種〉

##### (歯学部)

第2学年	青木 真由	奥田 泰晃	小暮 祐大
	田中 美穂	長崎 朋佳	山本 明昇
第3学年	高田 紋花	松井 梨乃	横山 裕乙
第4学年	津村 円華	中島 拓紀	中野 祥
	比嘉 真実	水村 敦	山口 裕史
第5学年	岡田早慧子	我喜屋 佑	北野 晃平
	永井佐和子	長崎美緒乃	吉田 浩子
第6学年	青木美和紀	薄井 宏真	村上 舞華
	森山 鮎子		

##### (歯科技工専門学校)

第2学年	鶴見 直人
第3学年	黒田 順子

##### (歯科衛生専門学校)

第2学年	横山 葵	今村 麻衣
第3学年	星野 未沙	藤本 遥

##### 〈第2種〉

##### (歯学部)

第5学年	桐戸 美佳		
第6学年	市川 理沙	加藤 博之	仮谷 仁志
	松村 達也		

#### = 日本大学古田奨学生 =

今井亜理紗 (大学院4年次 歯学専攻)

#### = 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学生 =

須田 駿一 (大学院4年次 歯学専攻)

#### = 歯学部同窓会奨学生 =

##### (歯学部)

第3学年	田邊 和
第5学年	山口 良輝
第6学年	玉熊 寧々

##### (歯学研究科)

4年次	佐田 英理	須田 駿一	相馬 久実
	氷見 一馬		